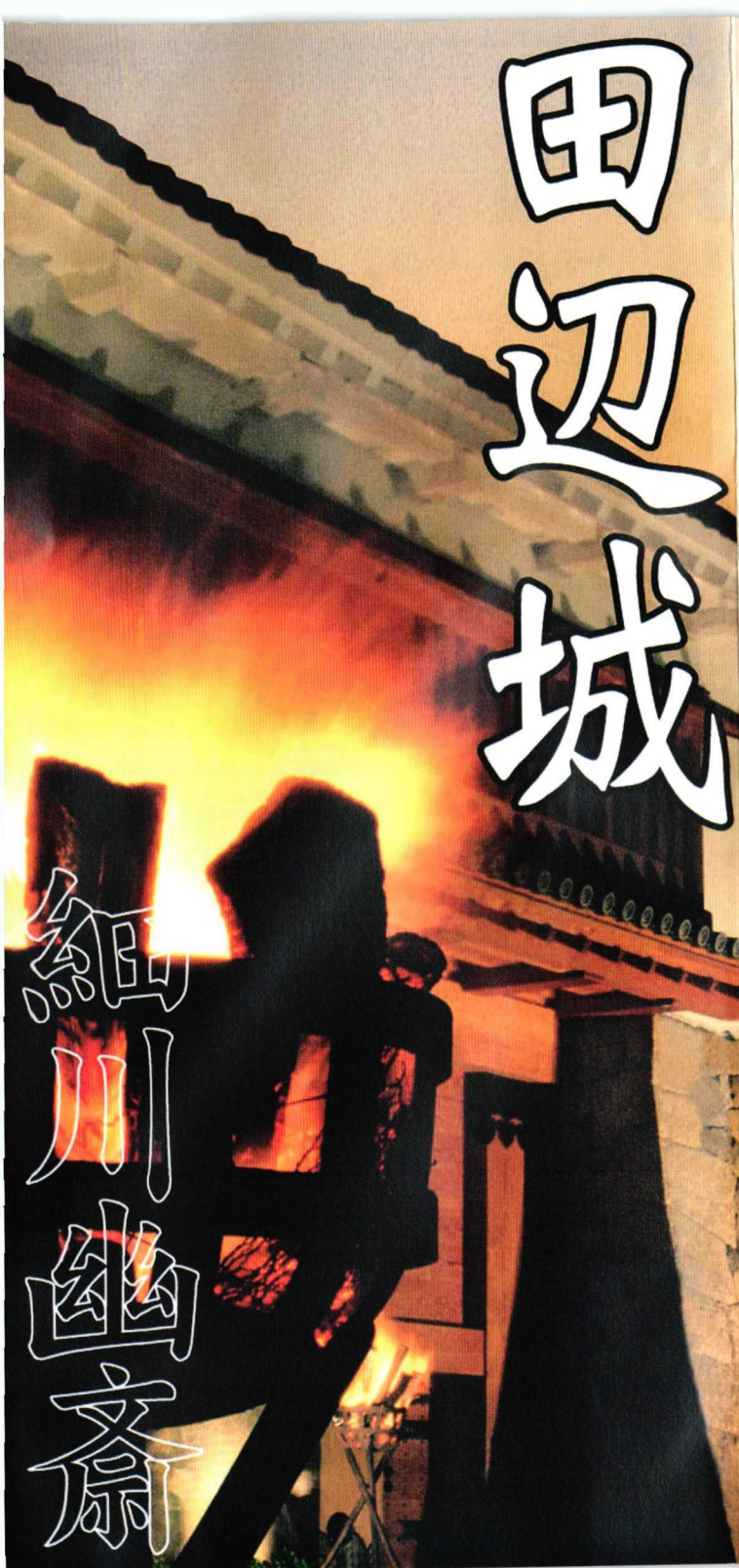




田辺城

細川幽斎

ご案内図



開館時間

午前9時～午後5時

休館日

■ 毎週月曜日〔祝日の場合その翌日〕
■ 祝日の翌日 ■ 12月29日～1月3日

※曜日の配置により、祝日の前後は上記と異なる場合があります。
詳しくは資料館へお尋ねください。

入館料

無料



舞鶴市田辺城資料館

〒624-0853 舞鶴市字南田辺15-22

☎0773-76-7211

歴代の城主（城主就任年）

細川	藤孝	1580	(天正8)
忠興	1582	(天正10)	
高知	1600	(慶長5)	
高三	1622	(元和8)	
高直	1636	(寛永13)	
高盛	1663	(寛文3)	
親成	1668	(寛文8)	
富成	1673	(延宝1)	
英成	1693	(元禄6)	
明成	1737	(元文2)	
惟成	1750	(寛延3)	
宣成	1783	(天明3)	
以成	1804	(文化1)	
節成	1825	(文政8)	
誠成	1852	(嘉永5)	
彌成	1869	(明治2)	

舞鶴市史巻より

京極

まきの
牧野

舞鶴市史上巻より



細川幽斎の生涯をビデオで、また二九三年間の田辺城の歴史をパネルや模型で紹介しています。城下町のにぎわいを復元した町並模型も展示しています。

彰古館

彰古館



浦島太郎錦絵

彰古館は、山中丹治氏設計、有本國藏氏の寄附により昭和十五年に建設されました。館内には、市指定文化財「糸井文庫」の錦絵資料から「酒吞童子」「安寿と厨子王」「浦島太郎」などのパネルを展示しています。

織田信長が近畿地方を征して覇を唱えた時代は、まさに近世への夜明けの時代でした。それまでの室町幕府の政治や社会は、血筋や家柄が重んじられ、代々家柄によって何の役に就くか決められていました。ところが、信長は、そのような家柄・門閥主義の人材登用を無視し、木下藤吉郎(あとの豊臣秀吉)などの有能な人材を思い切つて登用しました。従来の武士がもつ正攻法一辺倒の旧態依然とした感覚では、このようなある意味で得体の知れないような連中を取り込み活用するなど、到底及びもつかないことでした。信長は、従来にないこの発想を実行し、隣国を攻略すること次第にその勢力を拡大していきました。

足利義昭を奉じて京上洛したことも、まさに信長の新しい発想でした。柴田勝家や林道勝を始めとす

織田信長

足利義昭



織田信長像 長興寺所有

る尾張代々の家臣では、中央の政治を主宰することは難しいと考え、信長は旧室町幕府の幕臣であった細川藤孝や明智光秀を登用しました。この二人には学問があり、また朝廷や幕府の内情に明るかったことから、実務のうえに必要な人材と考えたのです。

その後、明智光秀は、天下統一を目前にした織田信長を本能寺で討ち果たし、天下を治めようとしたが、その目論見はわずか十三日で瓦解しました。その最大の誤算は、光秀の軍団に属し、縁戚関係をもつほど親交の

細川幽斎



細川幽斎像 天授庵所藏

明智光秀

細川ガラシャ



細川ガラシャ夫人 (栄光の聖母マリア部分) 下総京都府立 堂本印象美術館所藏

田辺籠城と古今伝授

細川藤孝(幽斎)は、一五三四年、京都の東山で室町幕府の重臣三淵晴員の二男として誕生。実の父は、第十二代將軍足利義晴という。

幽斎は、荒々しい戦国の世に、ぬきんでた文人であり、武人でした。武家の棟梁源氏の足利將軍家の正統の血をうけ、有力な幕臣細川家のあとを継ぎ、將軍の側近として二十七年にわたつて幕府をささえました。のちの十五代將軍足利義昭を松永勢から救い出し、將軍

の座にすえて、八年間もりたてました。この間の中央での経験が、情勢に明るく出処進退を誤らない彼の資質を作ったのでしょう。こののち信長・秀吉・家康に従つて忠勤に励んだことこそ武家の生き方に一生懸命であったことに他なりません。

また文人としては、四十九才で隠居したあと、二十年の長きにわたつて、文芸界の第一人者として旺盛な活動を続けました。その分野は、和歌・連歌はいうまでもなく、太鼓・謡曲・

いにしへも今もかはらぬ世の中に こころの種を残す言の葉

変わらない悠久の時の流れの中に、和歌は言葉によつて心の種を残していくものです(そのように私の歌と心も残るならば有り難いことです)

田辺籠城戦の最中、決死の覚悟を決めていた幽斎は、古今伝授を行つていた後陽成天皇の弟、智仁親王に対し、古今伝授継承者を絶やさないため、古今伝授証明書を書き、送りました。そのとき、添えられていたのが右の歌です。



古今伝授したと伝えられる城内の心種園

あつた細川藤孝・忠興父子の協力が得られなかつたことです。藤孝は信長を討つた後の光秀の誘いに一切応じようともしませんでした。戦国の世を生き抜くために嗅覚を研ぎ澄ませていた藤孝は、光秀に天下人の器量があるとは思っていませんでした。

田辺城

近世の幕開けとなつた天正八年(一五八〇)、丹後国は細川藤孝、忠興親子の領国となります。細川氏は、現在の伊佐津川と高野川に囲まれた平野部に田辺城を築きました。これ以後、田辺城は細川・京極・牧野氏の居城として約二九〇年間、領内統治の中心的存在でした。明治六年(一八七三)、田辺城は廃城とされ、本丸付近は現在、舞鶴公園となっています。また、「舞鶴」の地名は、田辺城の雅称(舞鶴城)に由来しています。

乱舞・料理・茶道・書道・鞠・有職故実と広く才能に満ちあふれたものでした。

関ヶ原合戦の前哨戦として、石田三成方一万五千人の軍勢が田辺城を攻めました。忠興率いる主力軍三千程が関ヶ原で戦い、豊後国杵築城では一千の兵が戦うなど、この時期細川家は四つの戦線で戦っていました。そのため幽斎の軍勢はわずか五百人程度で、峰山、宮津の城を焼き払い田辺城に籠城しました。しかし、幽斎は文芸界のトップに立つ「古今和歌集」の秘事口伝(古今伝授)の伝承者であつたため、古今伝授の魔能を憂慮した後陽成天皇は田辺城を囲む西軍の陣に勅使を送りました。「幽斎は古今集の秘奥を伝え帝王のご師範で、神道・歌道の国師である、速やかに囲みを解くべし」―天皇の意向を知つた西軍の諸将は大いに驚き、ただちに包囲が解かれたのは有名な話です。幽斎は、わずかな手勢で五十二日間を小城に抱つて戦い抜いたのです。田辺城発掘調査では、籠城戦を偲ばせる多数の鉄砲玉のほか天守台跡が確認されています。

細川ガラシャ

聡明な美貌で知られた明智光秀の三女・玉は、織田信長の縁組取り持ちで、細川忠興と結ばれました。しかし、光秀謀叛の一族であつたため、忠興は離縁・幽閉という形で領内の山奥深くにかくまいました。これは、忠興が玉を守ろうとする苦肉の選択であつたにちがひありません。玉は、二年後、秀吉に許されて、再婚の形で細川家にもどりました。関ヶ原の戦いの折、大坂の細川屋敷にいた玉は、夫の命に従い西軍の人質にとるという命令に死をもつてこたえました。このことは婦徳の鑑(かがみ)と称えられ、世間の同情は細川家に集まつたのです。